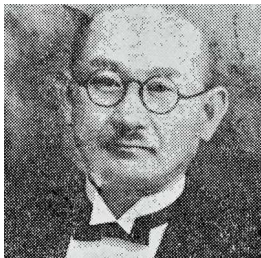


鳩山一郎らと自由党を結党した弁護士。法務大臣となる。

花村 四郎 (はなむら しろう) 豊科光 (とよしな ひかる) 出身
 (四郎が活躍した時代) 1891年(明治24年) ~ 1963年(昭和38年) 享年72歳

明治 24	大正 7 8	14	15	昭和 2	7	17	24	29	38				
豊科光に生まれる。	日本大学法律学科卒業。	弁護士になる。	香川県でおきた伏石事件の弁護にあたる。	長野県で起きた警察署廃止事件で、弁護にあたる。	日本弁護士会協会理事となる。	東京弁護士会副会長に推され、在野司法の重鎮となる。	東京市会議員および府会議員に5回当選する。	東京市会議員および府会議員に5回当選する。	以後、8回当選し18年務める。	翼賛選挙で衆議院議員に当選する。	鳩山一郎、河野一郎らと自由党を結党。	鳩山一郎内閣において、法務大臣となる。	病気のためなくなる。



花村四郎の業績

- ① 弁護士として活動。小作人の利益擁護のために弱者の味方になり弁護にあたる。
- ② 東京市会、府会議員として活躍。
- ③ 衆議院議員として当選8回。18年にわたって敗戦後はひたすら日本の再建復興と憲政発展のために尽力。
- ④ 鳩山一郎らとともに日本自由党を結党。
- ⑤ 法務大臣として人権伸張、法務行政の民主化に尽力。

権威に屈せず民衆の味方となり弁護活動を行う四郎。

四郎が弁護士として活躍した大正時代は、農民運動、労働運動、全国水平社の設立、女性解放運動、社会主義運動など、民衆の力が高まり民衆のための活動や民衆自身による活動が活発になった時代でした。そのため、民衆と権力者との間で争いが多く起こっていました。

1925年(大正14年)、香川県で起きた小作争議、伏石(ふせい)事件では、進んでその弁護にあたりました。小作農民や弁護士らとともに武装警官の配置に抗議したため、拘束される事態に至りました。

1926年(大正15年)長野県で起きた警察署廃止反対運動では、逮捕・起訴された多くの町民を、弁護団の一員として弁護を引き受け有利な判決を勝ち取りました。

弁護士としての手腕、力量が認められ、日本弁護士協会理事、東京弁護士会副会長に推され、重鎮として活躍するようになりました。

自由主義を貫いた政治家。鳩山一郎らと自由党を結党。

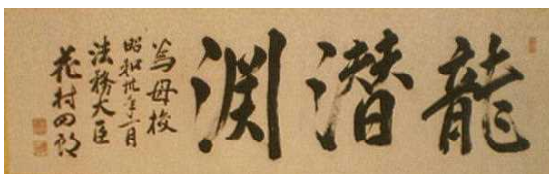
衆議院議員鳩山一郎との出会いをきっかけに、四郎は政治家として活動を始めました。

東京市会議員、府会議員を経て、戦時中は、国会議員選挙に出馬しました。

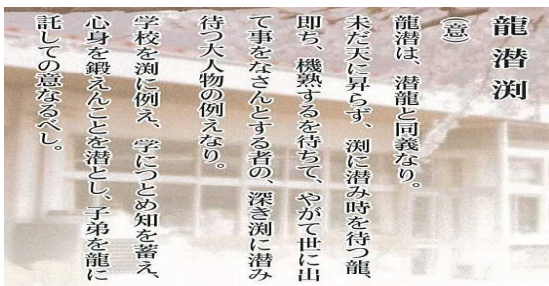
日中戦争、太平洋戦争の最中、自由主義への弾圧が強くなり政党は次々に解散していきました。軍部の方針を支持する団体の推薦を受けた候補者が多数立候補する中、四郎は非推薦で立候補しました。警察や憲兵の厳しい弾圧にもめげず、鳩山一郎、河野一郎等、自由主義を唱える少数の同士とともに当選を勝ち得ました。軍部独裁の時代、その体制の在り方に同調するか異議を唱えるかは困難な選択です。軍部の力に屈せず自由主義を貫いた四郎の覚悟は計り知れないものがあります。

戦後は、鳩山一郎らとともに自由党を結党し、鳩山総裁の秘書となりました。また、鳩山内閣では、法務大臣に就任し法務行政の民主化に尽力しました。

戦時下でも軍部に迎合せず自由主義を貫いた四郎たちのような政治家がいたからこそ、戦後日本の議会政治、政党政治は速やかに再出発を図れたと言えるのでしょう。



(豊科東小学校所蔵)



母校に寄贈した書に込められた四郎の思い。

四郎の父は早くに亡くなったため苦勞しながら勉学に励みました。旧制松本商業学校(松商学園)卒業後、日本大学法律学科に進学し弁護士となりました。

昭和29年、法務大臣となった四郎は母校上川手小学校(旧豊科町)にて講演会を行い、翌年母校にこの書を寄贈しました。

子どもたちを龍、学校を淵、勉学に励み心身を鍛えることを潜に例えています。龍のように大きな可能性を秘めた子どもたちが勉学に励み自分を磨き、将来世に出て大きな事を為さんとする人に、信念を貫き突き進む人になってほしいという願いが込められています。

【参考文献】

- 安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人たち」
- 「南安曇郡誌」
- 「豊科東小学校30周年記念誌」
- 「長野県史通史編第8巻近代二」
- 第43回国会衆議院会議録(昭和38年7月6日)
「故議員花村四郎君に対する追悼演説」
- 「戦後社会と青少年行政の変遷」後藤雅彦
現代社会文化研究No.37 2006年12月